

教育センターニュースNO. 6

四日市市諏訪町2-2 四日市市総合会館内 TEL (354)-8283 FAX (359)-0280
 URL <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/> E-mail kyouikushien@city.yokkaichi.mie.jp

教育支援課の一年目とこれから

教育支援課 宇佐美 好孝

秋の雨上がりの早朝、総合会館東側のぬれた路面にくっついた落ち葉を、力を込め掃いてきれいにする清掃員の方。

「今日は風があるで、また落ちるんやわ。とりにくいで大変やわ。」と、私と話をしている間にも落ちてきた葉を掃き続けていました。

屋前に同じ所を通ると、まだ湿っている路面には一枚の葉もありません。「すごい」これぞプロの仕事。この方には「仕事をこんなふうにした」という確固たるめざす姿があるのでしょうか。私はその仕事ぶりに感心しました。

教育支援課として4月に新たなスタートを切って、一年が過ぎようとしています。この間、私たちも特別支援教育・相談グループと研修・研究グループのそれぞれでめざす姿を掲げ、その達成をめざして様々な取り組みを進めてきました。その結果、多くの成果が見えてきました。その一部を紹介いたします。

特別支援教育を推進する取り組みでは、地域特別支援教育コーディネーターや巡回相談員、指導主事などが1月末現在で588回、園・学校訪問を行いました。これにより、校内委員会が定期的に関われ、校内の特別支援教育コーディネーターを中心に、支援が必要な子どもの実態と緊急時の対応及び支援の方向についての情報交換が日常的に行われ、教職員全員の共通理解が図られるようになった園や学校が増えました。

研修に係る取り組みでは、教職員研修講座にステージ別研修や連続講座を増やしたことで、教職員に講座で身につけたスキルや考え方を授業などで活用しようという意識が育ってきました。またICTの出前研修で、ドキュワークスや電子黒板などの機能を提示するたびに、受講者から「おー」と感嘆の声がかぼれるなど、その反応の大きさと研修に取り組む姿勢に、ICT機器を校務や

自分の授業に取り入れようという意欲の高まりを感じました。

教育支援課としてはまだまだ多くの課題があるとは思いますが、私たちはめざす姿の達成に向けての一步を踏み出しました。それを確かな歩みにしていくために、教育支援課は、訪問や出前など、個別に対応することを大切にしながら、課としてできることを提案し続けたいと思います。めざす姿の達成に向けて、これからも積極的に教育支援課を利用してください。そして、「これぞ、子どもを育むプロ」と言える仕事ができるように、ともに歩んでいきましょう。



研究報告

平成20年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校園・関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校園での実践に広く活用されることを願います。



第377集

研修・研究グループ 指導主事 中村 隆志

認め合い支え合う学級集団の育成に関する研究 ～構成的グループエンカウンターを活用して～

構成的グループエンカウンター（SGE）は学級集団づくりに大変有効です。Q-U検査で学級集団の状態を把握した上で、SGEのエクササイズを配列し計画的に実施することで、学級の「ルール」と「リレーション」が高まることが明らかになりました。認め合い支え合うあたたかい雰囲気の学級集団を目指すためには、「ルール」を確立すること、「リレーション」を促進させること、この2つが不可欠です。

執筆者からの一言

学級目標、学級活動、道徳等の授業、学校・学年年間行事と関連させて計画的、継続的に実施することがポイントです。



第378集

研修・研究グループ 研修員 小林 ゆかり

小学校高学年におけるプロジェクト型英語活動の考え方・進め方に関する研究 ～子どもたちが意欲的に取り組める英語活動を目指して～

児童の意欲を高める英語活動として、「プロジェクト型英語活動」があります。児童の実態に即して単元を構成し、授業後の児童や担任の振り返りなどをもとに、授業改善を行いながら、児童の意欲が増す活動や方法を考察しました。本研究では、「英語でクッキング Let's make tacos!」のゴールに向けて学習カリキュラムを構成し、プロジェクト型英語活動に取り組みました。

執筆者からの一言

単元のゴール「タコス作り」に向けて、子どもたちは楽しく学習を積み重ねていきました。総合的な学習のカリキュラム構成にも似ているので、ぜひ試してみてください。



研修の効果測定および評価の在り方に関する研究

～四日市市教育委員会教育支援課研修事業のPDCAサイクルの確立を目指して～

研修実施者として、研修の効果測定・評価は今日的課題です。教職員研修も同じです。本研究では、いくつかの研修講座を調査対象とし、調査票の内容や実施の方法・時期を工夫して、理解度や活用度を中心とした研修効果の測定・評価方法を開発しました。また、その方法をもとに、全ての研修講座についての方策を提案し、本課研修事業のより効果的なPDCAサイクルの在り方を確立しようとしてきました。

執筆者からの一言

受講者のみなさんにはたくさんの調査にご協力いただきました。ありがとうございました！研究の成果を踏まえ、より効果的な研修の実施に努力していきます。



「自己学習力の向上」を図るための支援の在り方に関する研究

～「自己制御学習」モデルを活用して～

中学校保健体育科（長距離走）の授業実践で、「自己制御学習理論」を活用した学習カードを工夫・作成し、それを使用することによって、自己学習力を向上させることができることが明らかになりました。走力に関わらず全体的に自己学習力が向上し、特に、走力がより低い傾向にある生徒を向上させることができるという結果が得られました。

執筆者からの一言

学習カードを使うことで、予想以上の学習効果が得られました。今後の授業づくりの参考になれば幸いです。



不登校児童生徒の支援における学校との連携の在り方に関する研究

文部科学省は、平成20年度に公立小中学校で活動するスクールソーシャルワーカーを、都道府県計141地域に配置しました。本市における不登校児童生徒支援体制を考えるにあたり、スクールソーシャルワーカーに着目し、その役割を分析するとともに、先行研究、先進事例、本市教職員への聞き取りから、学校との連携における適応指導教室の果たすべきスクールソーシャルワーク機能について検討しました。

執筆者からの一言

スクールソーシャルワーカーは、聞きなれない職種かも知れませんが、その必要性については、誰もが認めるところではないでしょうか。本研究を実践に生かしていきたいと思えます。



➡ **ご覧ください。**

各研究の詳しい内容は **教育センターホームページ**
(URL <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>)、

教育情報データベース（市内小・中学校・幼稚園のみ）で4月からご覧になれます。



情報教育について



今年度は、教職員用コンピュータの導入や小学校のコンピュータ教室の機器更新・新規ソフト導入など、学校のICT関連の環境が大きく変化しました。導入から半年、その有効な活用が広まってきています。

*** 今年度のICT環境の変化 ***

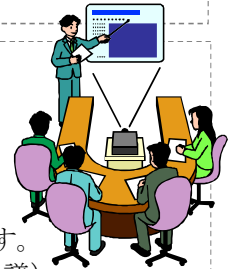
【教職員用コンピュータ・プロジェクタ・スクリーンの配備】

◇市のネットワークに接続されたコンピュータを配備したことで、市の共有フォルダが使用可能となり、情報管理の安全性が格段に向上しました。また、ITサポートによる遠隔操作での支援が受けられるようになりました。学校掲示板やOutlookメールの活用によって、情報の共有化・情報伝達の効率化がもたらされました。このように様々な面で仕事の効率化・省力化が実現しています。また、全ての小中学校にプロジェクタとスクリーンが各3台配備され、授業や集会など活用の場面が広がっています。

【小学校におけるコンピュータ教室の機器更新・新規ソフト導入】

◇小学校コンピュータ教室の機器を更新し、新規ソフトを導入しました。この更新に伴い、小学校では、教室で活用できる教材ソフトや問題プリント作成ソフトを教職員用コンピュータに導入しました。（中学校は次回コンピュータ教室機器更新時に導入予定）それらを活用することにより、効果的な授業が行われるようになっていきます。また、月2回のICTサポータの支援により、授業や校務でのICT活用が広がっています。

*** 使い方 あ・れ・こ・れ ***

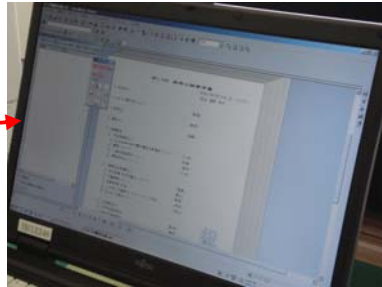


★ 職員会議をペーパーレスで実施！（現在すでに数校で実施）

◎職員会議で使用する書類をDocuWorksで作成し、そのデータをメールで職員に送信。教職員用コンピュータに保存したそのデータを各自のコンピュータで見ながら会議を行います。こうすることで、紙・インクや印刷等の手間も節約できます。（写真は小山田小学校の職員会議）



↑職員室の自席で会議



↑書類は全てパソコンの画面上で



↑資料によってはプロジェクターを使用

★ DocuWorks(教職員用コンピュータ)で、文書管理が簡単に！

◎ワード・エクセル・PDF等、種類やサイズが違う文書もひとまとめにでき、印刷も用紙サイズにあわせて自動で縮小・拡大が可能。ページも簡単につけられます。会議書類・研究紀要・説明会資料・校外学習のしおりなどの作成に威力を発揮します。また、作成した文書はスライドショーのように表示ができ、発表や説明会で新たに資料を準備することなく提示ができます。作成した文書とデータが一元管理できるので、データを見るのも変更するのも簡単です。



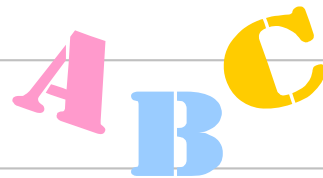
DocuWorks を使って作成した自然教室のしおり

★ Outlookメールの活用で、情報の共有化・効率化！

◎Outlookメールを校内の連絡伝達に使用している学校もあります。また、多量の書類も、データをメールに添付して送受信することで、外部との情報交換が簡単に行えるようになりました。また、同じ校種・教科間での資料のやり取りが促進され、共有された情報が授業等に生かされています。



小学校外国語活動について



★ Welcome 英語ノート! ★

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、来年度から、小学校外国語活動が始まります。

四日市市としての方向性

① 外国語活動の時間数の目安

○5・6年生（外国語活動の時間で行う）

平成21年度：年間15時間程度（TT10時間・担任単独5時間）

平成22年度：年間25時間程度（TT15時間・担任単独10時間）

平成23年度～：年間35時間（TT20時間・担任単独15時間）

○1～4年生（標準授業時数外で行う。）

平成21年度～：年間5時間（すべてTT）

② 活動内容

○1～4年生 「四日市市小学校外国語活動カリキュラム」を中心とした活動

○5・6年生 「英語ノート」「四日市市小学校外国語活動カリキュラム」を中心とした活動

③ 配付教材

○英語ノート、英語ノート付属音声CD、英語ノート指導資料、電子黒板用ソフト、英語ノート用絵カード

高学年の外国語活動は、ALTとのTTで行う場合と、担任単独で行う場合があります。

👉 英語ノートとは？

「英語ノート」は、文部科学省が発行した外国語活動のための共通教材です。道徳における「心のノート」と同様のものと解釈できます。

四日市市には、四日市市小学校外国語活動カリキュラム（低学年・中学年・高学年）があります。教育委員会が配付（予定）する「英語ノート・四日市市小学校外国語活動カリキュラム対照表」を参考にしながら、各学校の児童の実態に即した内容を考えて進めましょう。



👉 「英語ノート」を使った授業づくり

外国語活動は、子どもたちとともに創る活動です。

子どもたちの活発なコミュニケーションが生まれるような授業にしましょう。

① 「授業プランづくり」

子どもたちの実態、教科との関連等を考慮して、年間指導計画をたてましょう。

【6年生の例】

1学期（6時間程度）L1「アルファベットで遊ぼう」・L3「カレンダーを作ろう」

2学期（6時間程度）L6「行ってみたい国を紹介しよう」

L7「自分の一日を紹介しよう」

3学期（3時間程度）L9「将来の夢を紹介しよう」

来年は中学だし、文字を意識させるのにL1「アルファベットで遊ぼう」は1学期に入れましょう。

L6「行ってみたい国」は社会と関連させてやれそうね。

卒業にむけて、自分の夢（L9）を英語で言えるといいね。



② 教材研究

レッスンで設定されているねらいを確認し、単元構成（何時間扱いにするのか）、活動内容の解釈や、発展的活動の可能性等を考えましょう。また、電子黒板用ソフトの使い方や絵カードの作成等、教具の確認を行いましょう。

③ 授業実施

担任は、児童にとって英語を使おうとするモデルであり、安心感を与える存在です。児童とともに、楽しみながら授業を進めましょう。また、インターラクティブユニットなどICT機器をうまく活用しましょう。

④ 研修の推進

英語指導員が学校に来たときに「5分間英会話レッスン」を行うと、年間合計2時間程度になります（「英語運用能力向上研修（年間5時間実施）」「小学校外国語活動研修がっく P13,14」より）。教育支援課の研修講座（6月・7月）もうまく活用しましょう。

重点課題研究推進校事業について

重点課題研究推進校とは？

- 教育支援課と連携し、「授業づくり」にかかわる研究を推進している学校です！
- 研究主題を設定し、授業実践を通して成果と課題を明らかにします！
- 研修講座として校内研修会、授業研究会を公開するなど研究成果を全市へ普及しています！

大池中学校

H19年度から

生徒の自己学習力の向上を支援し、学習意欲の向上を図る学習指導の在り方に関する研究 ～「おーいける」シートによる学習支援と「学びあい」活動を重視した授業実践を通して～

『4人グループやペア学習などの「学び合い」活動を重視した授業の展開』『授業の振り返りとともに、学習の見通しを持たせ、学習習慣を定着させることをねらいとした学習カードの工夫・改善』に取り組んでいます。
全教員による年間4回の授業研究日を設定し、うち2回は、教育支援課の研修講座として他校の教職員の参加も得て、実践交流ができました。
この取り組みによって、勉強方法が分かり学習の目標を持てる生徒が増え、そのことによって自己効力感（学習の成就による見通し）を高めることにつながっていることが分かりました。



常磐西小学校

H19年度から

学ぶ喜びを味わい、ともに高め合う子をめざして ～聴き合いから学び合いの生まれる授業の創造～

国語科を中心に聴く力に重点を置き、聴き合うなかまづくりを土台としながら研究を進めてきました。授業の中で「モノとの対話」を通してしっかり学び、さらに「なかまとの対話」を通して学ぶ喜びを味わい、お互いに自分自身の学びを高めていけるような授業を目指しています。年間2回以上、他の教職員に授業公開し、全ての授業研究会に講師を招き、事後研究会にも力を入れ（うち2回は教育支援課の研修講座として公開）、教師集団の学び合う関係づくりにも力を入れてきました。この取り組みにおいて、子どもたちが「聴く」ことの大切さに気づき、学び合う姿が見られ、教室の雰囲気は変わりつつあります。



笹川西小学校

H20年度から

子どもが考えや動きを創り出しながら、 夢中を継続する授業の創造

子どもたちが夢中になる姿を継続する授業とは、どんな授業かについて体育科を中心に研究しています。研究主題にある授業を創るには、①題材設定②指導者の働きかけ③子どもどうしのかかわり合いは、どうあるべきかについて年間5回の授業研究や実技研修会・実践交流などに取り組み、明らかにしていこうとしています。

富田中学校

H20年度から

学び合う生徒集団の育成 —学習行動の評価を通して—

教師全員、全学級が授業公開をビデオ研修方式で行い、授業を見る目、創る目を鍛えあうことで、学び合う教師集団を創造し、「学び合う授業」づくりに取り組んでいます。また、授業改善のための指標として、ルーブリックを活用して生徒の学習行動を評価し、学習行動の向上（学び合う生徒集団の育成）を図っています。

➡ **ご覧ください。**

重点課題研究推進校事業「平成20年度研究報告書」の詳しい内容は **教育センターホームページ**

(URL <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>),

教育情報データベース（市内小・中学校・幼稚園のみ）で4月からご覧になれます。

